

令和7年 7月 吉日

会員各位

一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

「2023年版 鋼製建具・鋼製軽量建具技術標準」の改訂について

拝啓 会員各位におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。また、平素は当協会の事業推進にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「2023年版 鋼製建具・鋼製軽量建具技術標準」におきまして、このたび下記内容にて改定を行いましたのでご連絡申し上げます。

会員各位におかれましては、何卒趣旨をご理解いただき、活用いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 改訂の主旨・目的

「2023年版 鋼製建具・鋼製軽量建具技術標準」（以下、技術標準とする）の第3章施工基準及び第4章点検基準に記載の防火戸の運動エネルギーの算出方法が、（一財）建築防災協会殿発行の「防火設備定期検査業務基準（以下、業務基準とする）」と一部相違があるため、業務基準との整合を図る内容に改訂いたしました。

2. 主な変更内容

運動エネルギーを確認する際、扉の閉鎖時間を測定するが、扉のサイズが第3ゾーンの場合、技術標準等では90°～0°までの閉鎖時間を測定することになっていますが、一方の業務基準では最大に開放した状態～0°までの閉鎖時間を測定することとなり、その整合を図る旨改訂を行います。

例えば、2枚折りたたみ戸の場合、戸先側の第2扉の運動エネルギーを確認することになっているが、この場合、第2扉が最大に開放した状態は180°なので、180°～0°までの閉鎖時間を測定する必要があるためです。

3. その他

- ・本改訂に伴う書籍の再発行はいたしません。
- ・改訂内容は追補版として日本シャッター・ドア協会 Web サイトに掲載いたします。
- ・技術標準各頁と追補版各頁を差し替えてご利用ください。
- ・「鋼製建具・鋼製軽量建具技術標準」の次期刊行時には本変更内容を盛り込んだ上で製本、刊行いたします。

以上

## 新旧比較表

No	旧内容	新内容
1	<p><b>施工基準</b></p> <p>P98：閉鎖装置の判定基準「第3ゾーンの扉は、90° →0° までの閉鎖時間が個別検証により算出された 閉鎖時間以上であること。」</p>	<p>「第3ゾーンの扉は、全開 →0° までの閉鎖時間が個別検証により算出された 閉鎖時間以上であること。」</p>
2	<p><b>点検基準</b></p> <p>P120：9.2 作業手順 a) 随時閉鎖式防火ドア（開き戸）のタイムチャート「28 閉鎖速度を測定する際の扉の開き角度=90度」</p>	<p>「28 閉鎖速度を測定する際の扉の開き角度=開き角度」に変更し、以下の説明を追加。「※戸のサイズが第1, 第2ゾーンに該当する場合は90度 該当しない場合は全開」</p>
3	<p>P124：c) 常時閉鎖式防火ドア（開き戸及び非防火一般ドア）のタイムチャート「28 閉鎖速度を測定する際の扉の開き角度=90度」</p>	<p>「28 閉鎖速度を測定する際の扉の開き角度=開き角度」に変更し、以下の説明を追加。「※戸のサイズが第1, 第2ゾーンに該当する場合は90度 該当しない場合は全開」</p>
4	<p>P133:附属書のA 運動エネルギーの確認及び閉鎖力の測定の概要の b) 運動エネルギー, 閉鎖力の確認</p> <p>「運動エネルギーは, 閉鎖時間及び戸の質量から換算して判定又は算出する。実際の点検では閉鎖時間は開き戸では全閉時から 90度開いた状態, 引き戸では・・・」</p>	<p>「運動エネルギーは, 閉鎖時間及び戸の質量から換算して判定又は算出する。実際の点検の閉鎖時間の測定は, 第1ゾーン, 第2ゾーンに含まれる開き戸では, 90度開いた状態から全閉時まで, 引き戸では・・・」</p>
5	<p>P133：d) 運動エネルギーの計算</p> <p>「運動エネルギーの計算は戸の重量が第1ゾーン, 第2ゾーンに含まれない場合に測定した閉鎖時間及び質量から計算する。」</p>	<p>「運動エネルギーの計算は戸の重量が第1ゾーン, 第2ゾーンに含まれない場合は, 全開位置から全閉までを測定した閉鎖時間及び質量から計算する。」</p>
6	<p>P135：b) 第1, 第2ゾーンに該当しない場合の手順3 10J以下を満足する閉鎖時間の算出に追記。</p>	<p>※ 全開位置からの測定になるので注意する。</p>
7	<p>P136：C 運動エネルギーの確認及び閉鎖力の測定の詳細の b) 手順2 戸のサイズ測定（高さ, 幅寸法からゾーン判定）</p>	<p>「また第1, 第2ゾーンに該当しない戸サイズの場合には, 戸のサイズから規定の運動エネルギー量及びそれを満足する閉鎖時間を算出し, 閉鎖時間がその条件を満たすことを確認する。なお, 第1ゾー</p>

No	旧内容	新内容
	「また第1, 第2ゾーンに該当しない戸サイズであれば戸のサイズから規定の運動エネルギー量及びそれを満足する閉鎖時間を算出し, 閉鎖時間がその条件を満たすことを確認するとともに閉鎖力を測定して150N以下を満足することを確認する必要がある。」	ン, 第2ゾーンとは異なり, 全開位置からの測定になるので注意が必要である。さらに閉鎖力を測定し, 150N以下であることを確認する。」
8	P136: C 運動エネルギーの確認及び閉鎖力の測定の詳細のb) 手順2 戸のサイズ測定(高さ, 幅寸法からゾーン判定)の表1の※第3ゾーン表記追加。	第3ゾーン: 全開位置からの閉鎖時間及び閉鎖力を個別に測定する。
9	P138: C 運動エネルギーの確認及び閉鎖力の測定の詳細のc) 手順3 10Jを満足する閉鎖時間の算出 「L: 開き戸の場合 $1/2 \times DW$ (扉幅) $\times$ 3.14(m)」	「L: 開き戸の場合, $DW$ (扉幅) $\times$ (開き角度/180) $\times$ 3.14(m)」
10	P139: C 運動エネルギーの確認及び閉鎖力の測定の詳細のd) 手順4 閉鎖時間の測定 「点検者は片手にストップウォッチを用意して開き戸では戸を全閉位置から90度開いた位置, 折りたたみ戸では第二扉が90度開いた位置, 引き戸では全開の位置で戸を保持する。保持した戸を離れたと同時にストップウォッチを作動させ全閉するまでの閉鎖時間(秒)を測定する。」	「点検者は片手にストップウォッチを用意して次に示す位置から, 保持した戸を離れたと同時にストップウォッチを作動させ, 全閉するまでの閉鎖時間(秒)を測定する。 1) 開き戸は, 第1ゾーン, 第2ゾーンでは90度開いた位置。第3ゾーンでは全開位置。(図1参照) 2) 引き戸は全開位置。(図2参照) 3) 折りたたみ戸は, 第一扉を全閉させた状態で第二扉について測定する。 第1ゾーン, 第2ゾーンでは90度開いた位置, 第3ゾーンでは全開位置(180度)。(図3参照)」
11	続き。図1 「作動距離(90度) 閉鎖時間測定位置」	「作動距離(Lm) 閉鎖時間測定位置」
12	続き。図1 「図1ー開き戸の測定位置」	「図1ー開き戸の作動距離」

No	旧内容	新内容
13	続き。図 1 説明を新規追加	【作動距離 L】 第 1 ゾーン：90 度からの閉鎖距離 第 2 ゾーン：90 度からの閉鎖距離 第 3 ゾーン：全開位置からの閉鎖距離 (破線部は第 3 ゾーンの場合を示す)
14	続き。図 2 「作動距離 (L m) 閉鎖時間測定位置」	「作動距離 (L m) は、全開位置から全閉するまでの距離」
15	続き。図 2 「図 2ー引き戸の測定位置」	「図 2ー引き戸の作動距離」
16	続き。図 2 説明を新規追加	【作動距離 L】 第 1 ゾーン：全開位置からの閉鎖距離 第 2 ゾーン：全開位置からの閉鎖距離
17	続き。図 3 「作動距離 (90 度) 閉鎖時間測定位置」	「作動距離 (Lm) 閉鎖時間測定位置」
18	続き。図 3 「図 3ー折りたたみ戸の測定位置」	「図 3ー折りたたみ戸の作動距離」
19	続き。図 2 説明を新規追加	【作動距離 L】 第 1 ゾーン：90 度からの閉鎖距離 第 2 ゾーン：90 度からの閉鎖距離 第 3 ゾーン：全開位置 (180 度) からの閉鎖距離 (破線部は第 3 ゾーンの場合を示す)

以上